

繊維系三学会会長・副会長会懇談会（第4回）及び
三学会合併に関する協議会（仮称）（第2回）議事録

【日時】 2024年3月31日(日) 13:00-16:00

【方法】 ハイブリッド開催

会場：キャンパスプラザ京都 6階 第8講

習室オンライン：zoom システム利用

【出席】

日本繊維機械学会

会長：井上真理、副会長：倉敷哲生、田上秀一、西脇剛史、事務局長：高平恭護

日本繊維製品消費科学会

会長：大矢 勝、副会長：榎本雅穂、森下あおい、（欠席：小田直規、事務局長：西 良造）事務局：山田 勲（書記担当）

繊維学会

会長：大田康雄、副会長：辻井敬亘、奥林里子、村瀬浩貴、事務局：山本恵美

【内容】 進行：大田康雄（繊維学会）

1. 各学会からの連絡事項について

各学会より現在の状況についての報告が行われた。

●繊維学会

繊維学会創立 80 周年記念国際大会である International Symposium on Fiber Science and Technology 2024 (ISF2024, November 25-28, 2024) についての概要が説明された。協賛いただくことで、より学会間の活発な交流の促進、お互いの学会を知る良い機会にできればと考える。併せて、展示への協賛も依頼を行った。2学会へ学会バナーの提供を依頼し、後日、ISF 2024 ホームページへ掲載させていただくことについて了解いただいた。引き続き、2学会の会員様、会員企業様からも発表登録や参加申込をしていただけるよう、広報の協力を求めた。最後に、6月以降、新理事体制が発足すること、理事の人選を行っていることが伝えられた。

●日本繊維機械学会

年次大会、総会の準備を進めていること、また、総会以降、新理事体制となることが報告された。新しい理事にも参画していただき、継続される理事と共に、合併を念頭に置いての体制作りを粛々と進めること、一方で、合併の有無に関わらず、通常の運営、行事開催に尽力していくことが伝えられた。

●日本繊維製品消費科学会

3月30日（土）に理事会を開催したことが報告された。既に3学会合併検討再開については理事会で承認いただいていたが、改めて総意を確認し、合併協議を進めることの同意を得たことが報告された。学会としては、6月に信州大学繊維学部で年次大会を開催予定であること、また、今回は企業や公設試の協力で、展示なども行う予定であることが伝えられた。年次大会での展示を活用して、ISF2024のアピールをしてはどうかについて提案があった。

2. 繊維系三学会合併に関する協議進捗状況について

2-1 各学会理事会での状況について

●繊維学会

3月23日（土）の理事会に於いて繊維系三学会会長・副会長会懇談会（第3回）の議事録を理事と共有したことが報告された。また、3月31日（日）午前中の執行部連絡会にて、WGメンバーを選任したことが伝えられた。委員への委嘱については、これから対応することが伝えられた。

●日本繊維機械学会

3月23日（土）に理事会が開催した報告がなされた。繊維系三学会会長・副会長会懇談会（第3回）の報告を行った。また、繊維系三学会合併に関する協議を進めていくこと、各WGを立ち上げて議論を進めることについても承認いただいた。WGメンバーについては、提出した書類の通りで承認を得ていることが伝えられた。なお、繊維系三学会会長・副会長会懇談会（第3回）議事録の共有については、理事会の議事録を共有する際に、併せての対応となることも伝えられた。

●日本繊維製品消費科学会

3月30日（土）に理事会を開催したことが報告された。WGメンバーについても、選任したことが伝えられた。

【結果】

繊維系三学会合併に関する協議の継続に関しては、3学会理事会で承認されたことを再度確認した。

2-2 WGメンバー選任状況について

【意見交換】

・WGで検討するにあたり、前回WGの議事録を参考にさせていただくこと、前回の結論をベースに検討いただくのが良いのではないか。

・限られた時間の中でのWG立上げとなるので、事前にリーダーを決定しておく方がいいのではないか。

・前回の議論から2年近く経過していることから、各学会を取り巻く状況も様々変化している。論文誌WGについては、特に、前回の結論ありきではなく、必要に応じて新たなフレームワークで議論し直しも視野に入れる可能性がある。最終的に前回の議論の結果と同じとなる可能性もあるが、着地点がどこになるかは現況では見当がつかない部分も多々ある。

・もし、論文誌検討WGで新しい案を出すのであれば、限られた時間から、全体像が崩れることがないように、新たなスケジュールを提案していただきたい。

・前回の合併協議では論文誌のIF消失が焦点の一つになっていたが、合併後もその可能性は極めて低い事は確認できている。合併の有無に関わらず、IFを上げる努力を続けなければ、常に消失の可能性はあると認識している。これらの事実を示した上で、論文誌WG内で様々検討いただければよいのではないか。

・前回WGで検討されたJFSTを完全に英文誌として存続させ、日本語の論文を中心としたジャーナルをもう一誌新たに作ることは、合併の大きなメリットと捉えている。IFが全てではないが、投稿数を増やして、3学会が協力して内容の充実をはかることが、ひいては戦略的にIFを上げていくことに繋がると考える。

・論文誌のみならず、前回の議論から変化していることは在り得るので、前回の議論の結果を踏まえて、現在の状況に対応しながら改めて議論することは必要なのではないか。

- ・学会誌検討 WG では、前回と同様にゴール地点を明確にして、1 年先の執筆依頼まで決めるくらいの気持ちで新たに準備検討していくことになると思う。
- ・学会誌の原稿に偏りが無いよう、川上川中川下をバランスよく取り込んだ計画が必要になる。
- ・会長・副会長懇談会メンバーが WG リーダーになることで、今後検討が進んでいく上での、中間報告などもシンプルに行えるのではないかと。
- ・WG が立ち上がった時点でその報告、一般会員へメンバーの開示や議事録のタイムリーな共有、が必要ではないかと。
- ・年次大会検討 WG については、前回具体的な議論に辿りつけていなかった。積み残しが叩き台となって、今回はそこからのスタートになると考える。2027 年はタワーホールが使えないなど、会場手配についても具体的な議論が急務である。
- ・前は、財務に関わる全てを財務検討 WG で担当していただいていた。今回は、各 WG から上がってきた財務報告をもとに、収支のシミュレーションをしていただくこととする。
- ・前の財務検討 WG の予算案では、事業規模が収支共に 9 千万円、収支差が 300 万円弱だった。今回は、精度を上げたシミュレーションができると、財政に関して大変心配されている会員様にもより理解いただけるのではないかと。安心材料が増えることで、より合併に賛同していただけるのではないかと考える。
- ・財務検討 WG では広告の取り方（個別依頼ではなく、一定以上の金額を出すとパッケージ化するなど）についても検討案がある。切り離しが難しい部分もあるが、他の WG と綿密に連携しながら精度を上げた予算案、シミュレーションの検討を進める。

【結果】

各学会の現理事メンバーから選任された委員確認と承認を行った。決定した WG リーダーには○をつけ、下記に示す。

【将来構想 WG】

(繊維学会) 道信剛志 東京工業大学、増田正人 東レ株式会社

(繊維機械学会) 竹本由美子 武庫川女子大学、廣垣和正 福井大学

(繊維製品消費科学会) 藤田雅夫 共立女子大学、○森下あおい 滋賀県立大学

【学会誌検討 WG】

(繊維学会) 内田哲也 岡山大学、○村瀬浩貴 共立女子大学

(繊維機械学会) 西村正樹 大阪産業技術研究所、勝 真理 株式会社アシックス

(繊維製品消費科学会) 杉浦和明 京都市産業技術研究所、森下あおい 滋賀県立大学

【論文誌検討 WG】

(繊維学会) 武野明義 岐阜大学、鬘谷 要 和洋女子大学

(繊維機械学会) 保田和則 愛媛大学、喜成年泰 金沢大学

(繊維製品消費科学会) ○大矢 勝 横浜国立大学、箱井英寿 大阪人間科学大学

【年次大会検討 WG】

(繊維学会) 中澤靖元 東京農工大学、花田朋美 東京家政学院大学

(繊維機械学会) ○田上秀一 福井大学、橋本欣三 TMT マシナリー株式会社

(繊維製品消費科学会) 榎本雅穂 京都女子大学、上條正義 信州大学

【催事・研究（委員）会検討 WG】

(繊維学会) 濱田仁美 東京家政大学、竹中幹人 京都大学

(繊維機械学会) ○倉敷哲生 大阪大学、若松栄史 大阪大学

(繊維製品消費科学会) 榎本雅穂 京都女子大学、小田直規 東レ株式会社

【国際化 WG】

(繊維学会) ○木村 睦 信州大学、櫻井伸一 京都工芸繊維大学

(繊維機械学会) 金井博幸 信州大学、小野努 岡山大学

(繊維製品消費科学会) 薩本弥生 横浜国立大学、深沢太香子 京都教育大学

【事務局検討 WG】

(繊維学会) 大田康雄 東洋紡株式会社、辻井敬亘 京都大学、山本恵美 事務局

(繊維機械学会) 井上真理 神戸大学、田上秀一 福井大学、高平恭護 事務局長

(繊維製品消費科学会) 大矢 勝 横浜国立大学、西 良造 事務局長

【財務検討 WG】

(繊維学会) 村瀬浩貴 共立女子大学、増田正人 東レ株式会社

(繊維機械学会) ○西脇剛史 株式会社アシックス、高平恭護 事務局長

(繊維製品消費科学会) 小田直規 東レ株式会社

【HP 検討 WG】

(繊維学会)、(繊維機械学会)、(繊維製品消費科学会) 現状未定。適当な時期に立ち上げを検討

3. 今後の進め方について

3-1 全体の計画確認

- ・早急に、各学会よりリーダーに WG の立上げと招集を指示することとした。
- ・4月5日（金）まで委員への委嘱、委員の連絡先を共有することとした。
- ・4月中旬までに WG リーダーから日程調整をしていただく。
- ・4月第2週に WG 立上げ、検討開始
- ・6月と8月を中間答申とし、最終答申は10月を予定
- ・2回目の中間答申では、各 WG より予算案を提出してもらおう。それをベースに、財務検討 WG で綿密なシミュレーションを準備、検討することとする。

3-2 今後の会長・副会長懇談会（仮称）の運営方法（メンバー、開催形式等）

- ・事務局検討WGを午前中に開催し、会長・副会長懇談会を開催する案が出された。
- ・当面は、検討課題も多いので、月一で開催することとする。

4. 次回の会議について

- ・事務局検討WG第1回 4月14日（日）対面開催
- ・繊維系三学会会長・副会長懇談会 5月19日（日）対面開催

5. 付記事項（会議の名称に関して）

・本会議以降にメールでの面審議にて、本会議の本来のタイトル「繊維系三学会会長・副会長懇談会（第4回）議事録」に「及び三学会合併に関する協議会（仮称）（第2回）」を付記することを審議し、承認された。

・趣旨としては昨年末に三学会において「三学会合併に関する検討の再開」をする事が各理事会にて承認された事を受けて正式に既存の繊維系三学会会長・副会長懇談会（以後「会長・副会長懇談会」において、その議論を再開しました。

具体的には2024年2月23日開催の本年度の第3回「会長・副会長懇談会」にて「合併に関して三学会にて協議を再開する事を確認」し、引き続き今年般2024年3月31日開催の第4回「会長・副会長懇談会」において具体的（実質的）な協議を実施しました。今回改めて議論の経緯・内容を明確化するためにサブタイトルとしてその旨を付記する事にした。